

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 793

事業名	海面環境保全事業		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	産業振興部	水産振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 37 - 3013			項	水産業費・3項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務			目	水産業振興費・2目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)			
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり			
	まちづくりの目標	ふやさんか 食づくりの担い手【農漁業】			
	施策目標	食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる			
該当する事業について「 」を選択		施策的事业		業務委託	負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に)	
		南あわじ市内の6漁業協同組合のうち、沼島漁協を除く5漁協(福良、南淡、湊、丸山、阿那賀漁協)	対象人数(人) 592
		意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	
		南あわじ市の海域には、河川等から漂着したゴミが散在しており、台風等自然災害の影響も受け、ゴミの量は膨大なものとなっている。そのままの状態を放置しておけば、漁業者にとって漁業操業の妨げとなり、漁獲高にも悪影響を与えかねない。そこで、市が補助金を出し、各漁業協同組合に海面の清掃を実施してもらうことで魚類繁殖の増大を図るとともに漁業操業の効率化、海面環境の保全を図る。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)	
	各漁業協同組合が漁船等を出し、海面及び海中に漂流しているゴミを収集する。集めたゴミを陸揚げし、可燃物と不燃物に分類した後、それぞれ清掃センターやリサイクルセンター等に運搬し適正に処分する。		
背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)		
	海に漂着するゴミ類の増加により、漁業操業が妨げられるようになっていた。そのような状況を改善し魚介類が住みやすい自然環境を守り、漁獲高の向上を図るために当事業が実施されることとなった。		
事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営	<input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他	(市内の漁業協同組合)
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成	年度	~ 平成
			年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)		
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から		
	合併前においては旧南淡町が実施していた。新市となって、漁協の組合長会等で事業の継続について協議した結果、当事業の有益性を鑑み、旧南淡3漁協は継続して事業を行い、旧西淡3漁協のうち湊漁協は新たに事業を実施することとなった。丸山・阿那賀漁協については合併初年度は事業を行わなかったが、次年度から実施することになった。また、沼島漁協については、18年度から離島漁業再生支援交付金という別事業の中で海面清掃を実施することとなった。以上のような経緯があり、現時点での当事業実施漁協は沼島漁協を除く5漁協となっている。		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	海面環境保全事業参加資格者数	指標単位 団体			
	指標説明 (指標算出方法等)	南あわじ市内における海面環境保全事業の補助対象となる団体				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	4	5	5	4	
	実績値	4	3	3		
	達成度 (%)	100.0	60.0	60.0	-	
目標値設定の考え方	本事業の対象となる団体					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	南あわじ市の漁業生産高	指標単位 トン			
	指標説明 (指標算出方法等)	市内の漁協のうち、当事業を実施した漁協の合計生産高 (17年度は4漁協、18年度は3漁協の生産高)				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	2,800	2,100	2,100	2,800	
	実績値	2,661	1,551	1,509		
	達成度 (%)	95.0	73.9	71.9	-	
目標値設定の考え方	海面環境をきれいな状態で維持することは生産高の向上にも寄与するものとする。					
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	直接事業費 (千円)	977	617	1,000	940	
	海面環境保全事業補助金	977	617	1,000	940	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	977	617	1,000	940	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0	
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
	事業量1(事業に要した日数)					
	事業量2(事業に要した人数)					
年間経費([A]+[B])	977	617	1,000	940		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	1.7	1.0	1.7	1.6		
受益者人数(592)1人当り経費(千円)	1.7	1.0	1.7	1.6		
経費に関する補足説明	H17・18年度については実績額。H19年度は当初予算額。					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	活動結果指標目標達成度	%	100.0	60.0	60.0	-	
達成度	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 18年度は台風等による自然災害が少なかったため、海面のゴミ量も少なく2漁協が事業実施を中止することとなった。本来、ゴミがなければ当事業を実施する必要性はなく、事業実施漁協が多ければ必ずしも達成度が高くなるというわけではない。達成度については数字で明確に表現し難く、事業を実施した結果海面が美しくなり、漁業操業の効率化が図られ漁獲高の向上に繋がったというように長期的視野で考えていくべきものであるように思われる。						自己評価 (5点評価)
							3
		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	成果指標目標達成度	%	95.0	73.9	71.9	-	
有効性	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 海面のゴミ類が少なくなることで、漁業操業の効率化が図られることは明確であり、ある程度の成果は認められる。また、清掃を行うことで美しい自然環境を維持していくことは重要である。						自己評価 (5点評価)
							3
		単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	活動実績1単位当り経費	千円	244.3	205.7	333.3	-	
効率性	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) ゴミの量は、その年の台風等自然災害の発生度合にも大きく影響されるので、清掃に係る費用も異なってくる。予算が余剰する年もあれば、逆に不足する年もあり得る。						自己評価 (5点評価)
							3
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 市が面している海の環境保全を図ることは漁業共同組合に任せきりにするのではなく、行政も関与すべき事であると思われる。従って、当事業の公共性及び必要性は高いと考える。						自己評価 (5点評価)
						4	
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 南あわじ市の水産業の振興という観点からだけでなく、環境対策の観点からも重要な事業であると考えられる。実施後すぐに効果が現れるような事業ではないと思うが、長期的にみると、漁獲高の向上に繋がりが得る事業である。海面清掃には多くの人手がかかり、費用面からみても各漁協単独で実施するのは難しく、今後も当事業の補助金交付を継続していきたい。						<div data-bbox="821 1473 1388 2016"> <p>評価グラフ</p> <p>達成度</p> <p>5 4 3 2 1 0</p> <p>必要性</p> <p>有効性</p> <p>効率性</p> </div>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	海面清掃を行うことを目的とした事業は当事業のみであり、必要性も十分に認められるので今後も継続していくべきである。	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 事業を中止した場合、海に漂着したゴミが放置され環境が悪化し、魚類が減少してしまう恐れがある。	